

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (津西高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持ち、社会をリードする人材を育成する学校 ○ これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校 ○ 確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会で生きるのに必要な力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力等）と、それを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒 ○ 将来、リーダーとして国際社会や地域社会に貢献しようとする高い志と夢を持つとともに、その実現に向けて学習や特別活動、部活動に意欲的に取り組む生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像実現のために組織的に取り組み、生徒とともに成長しつづける教職員 ○ 生徒一人ひとりの可能性を引き出し、生きる力の育成と進路実現のためにサポートを惜しまない教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>《生徒》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力の向上と学校生活の充実、進路希望の実現 <p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安心・安全で充実した学校生活と学力の向上、進路希望の実現 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をリードする人材の育成とそれによる地域の活性化 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校や生徒の状況、選抜情報などの情報提供 <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力と主体的に学ぶ力 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人材育成と地域貢献 	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の育成と高校生活への意欲 <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己実現のための連携と情報提供 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動への理解と支援
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をテーマとした課題研究で、一つの課題を継続して研究する取組を試みて欲しい。また、「提案」にとどまらず、地域で「実践・具現化」でき、「成果物」と「達成感」を得ることを期待する。 ○ 教員同士がいつでも授業を互見できる環境の推進を期待する。 ○ P T A等の代わりに、地域のサポーターによる学校支援地域本部のような学校を支援する取組が高校にもあってよいのではないかな。 ○ 地域の方や小中学生に、現在の西高の素晴らしさが伝わっていないとよく感じる。 ○ H P等の情報発信について、学校で行われていることが保護者や中学生にうまく伝わっていないと感じる。 ○ 以前に比べ、自転車通学のマナーはよくなった。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努めるなど、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。 ○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。 ○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための組織的取組が課題である。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持ち、社会で活躍する人材の育成、難関大学合格のための学力向上のために、生徒の可能性を引き出す計画的な教育活動や取組を推進する。 ○ 主体的・対話的で深い学びや探究活動を通して、確かな学力と社会で生きる力を育成する取組を充実する。 ○ 命を大切に教育に取り組み、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力を育むとともにICT機器を活用した授業づくりに向けて組織的に取り組む。 ○ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう総勤務時間の縮減に取り組む。 ○ 教員一人ひとりが自己の使命と職責の重大さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
高い志と社会で生きる力を持った生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持った生徒を育成するため、大学、地域等と連携して以下の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ① 「課題研究」 ② 津西SPP(サイエンスパートナーシッププログラム) ③ 津西グローバルチャレンジプロジェクト <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題研究」を始めとする探究活動に計画的に取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「課題研究」の取組に対する生徒の満足度80%以上 <p>※ 開始時からレベルが1P以上上がったと感じている生徒の割合</p>	<p>①1年生、2年生の総合的な探究の時間、LHRの時間を調整し、課題研究に全ての教員が関わる体制を構築した。多くの教員が関わることで、さらに多岐にわたる充実した取組となった。</p> <p>②三重大と連携し、また本年度は、実習船「勢水丸」での宿泊実習をコロナ依頼5年ぶりに再開することができた。</p> <p>③イングリッシュキャンプ(7月)、英語能力開発プログラム(8月)、高校生国際シンポジウム(2月)</p> <p>・83.0%(達成)</p> <p>(R4 82.8% R3 84.1%)</p>	◎

	<p>○ 難関大学合格のための学力の向上や進路指導のために、学校全体で上位者を育成するための学習指導、進路指導に取り組む。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大150名以上、難関大学20名以上、東大・京大1名以上の合格(過年度卒業生を含む)。 <p>○ 校門指導等により、遅刻の防止や挨拶の励行を徹底する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻数前年度比 10%減 	<p>R5 国公立161名 難関大学18名 東大京大2名</p> <p>R4 国公立194名 難関大学20名 東大京大1名</p> <p>(未達成) R5 年度 1057 44%増 R4 年度 732 87%増 R3 年度 391</p>	
--	--	---	--

<p>命を大切に する教育の推進</p>	<p>○ 授業、特別活動など、すべての教育活動を通して一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進し、自己肯定感を高める。</p> <p>○ 「命を大切に教育」という観点で人権教育、特別支援教育、道徳教育に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びや探究活動を推進し、自己肯定感を高める。 ② 生徒理解と情報共有のためすべての新入生の出身中学を訪問する。 ③ 特別な支援を要する生徒についてケース会議を実施し、その内容を全教職員で共有するなど、特別支援教育に学校全体で取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活に対する満足度 90%以上 <p>○ 交通事故の防止や自転車の運転マナーなどの交通安全教育を推進する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故件数 0件 	<p>①「人権総合学習」に探究活動を取り入れ学習の深化を図った。</p> <p>②県内ほぼ全ての出身中学校を訪問した。</p> <p>③特別支援教育推進委員会を中心に、特別な支援を擁する生徒等について学年や担任、管理職、保健室、スクールカウンセラー等、様々な生徒との関わりからの情報を密に共有する体制を構築した。その結果、支援員や外部機関とのすばやい連携が可能になった。</p> <p>・「満足」85.0%(未達成) (R4 85.1% R3 87.0%)</p> <p>7件(未達成) (R4 3件 R3 8件)</p>	<p>◎</p>
--------------------------	---	---	----------

改善課題

- ・ 欠席、遅刻数の増加。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考える。どこまで「頑張らせる」かの判断が難しい。
- ・ 交通事故件数の増加。引き続き0件を目指し、式や集会ごとに生徒指導主任から注意を行っていく。引き続き、自転車や歩行時のマナーについて常に意識させる。
- ・ 総合的な探究の時間「西考(ニシコウ)」の内容を見直し、1年生に探究の手法を用いた活動を行った。探究活動は進路意識や教科学習への意欲の底上げや目的の明確化といった側面があるので、1年生から引き継がれる2年生の「課題研究」をより効果的なものにしていく必要がある。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学力、授業力の向上のための組織的取組</p>	<p>○ 高大接続改革に象徴される、これから求められる学力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを進める。本校が育成する学力を明確にし、それを全教職員が共有した上で授業研究に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 全教職員が互見授業を実施する(1回/年以上)。 ② 高大接続改革に対応した作問を行う(1問/実力テスト1回)。 ③ 「授業アンケート」の実施(2回以上/年)</p> <p>【成果指標】</p> <p>・ 学力が向上したと実感した生徒 85%以上</p> <p>○ 組織的で計画的な学力向上のための取組、進路指導を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 進路研修会の実施(4回/年以上) ② 国際科学科運営委員会、学力検討会議の実施(4回/年以上)</p> <p>○ ICT機器の効果的な活用方法を検討するとともに、教員のスキルアップ研修に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・ 津西デジタル化戦略会議の実施(5回/年以上)</p> <p>【成果指標】</p> <p>・ PCや電子黒板機能付きプロジェクタなどのICT機器を活用して授業を行った教員 100% ・ 一人一台端末を活用した授業実践 全教科</p>	<p>①12月末まで実施。 ②実力テスト前に進路指導主事より説明がなされ、それに則った作問が行われている。 ③生徒・保護者アンケート1回、授業公開時に2回。 ・別途、生徒による授業アンケートを実施した。</p> <p>・73.7%(未達成) (R4 78.4% R3 79.8%)</p> <p>① 計4回実施 ② 計3回実施</p> <p>・ 計4回実施</p> <p>・ 非常勤講師が担当する特定の教科をのぞき、ICT機器の活用が行われた。 ・全教科実践(達成)</p>	<p>◎</p>
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>○ 教職員の総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 定時退校日の設定。(1回/月)(定時に退校した職員 80%以上) ② 部活動休養日の設定。(1回/週)(休養日を設定した部活動100%) ③ 会議時間の短縮。(60分以内に終了した職員会議、各委員会85%以上)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数0人 ② 一人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ③ 一人当たりの年次休暇・夏季休暇取得日数 15日以上</p>	<p>①1回/月実施 (93.6%) (R4 82.2% R3 84%) ②100% (達成) (R4 100% R3 100%) ③75.8% (未達成) (R4 84.7% R3 80.3%)</p> <p>①164人 (未達成) (R4 143人 R3 97人) ②28.4h (達成) (R4 31.0h R3 20.9h) ③17.8日 (達成) (R4 15.9日 R3 16.1日)</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
<p>コンプライアンス意識の向上のための取組</p>	<p>○ 教員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上に取り組む</p> <p>【活動指標】</p> <p>・ 「学校信頼向上委員会」の実施 (3回/年 以上) ・ 教員研修会の実施(1回/年 以上)</p>	<p>・ 2回実施(予定) ・ 2回実施</p>	

改善課題

- ・欠席連絡は、これまでの Google Form から「すぐーる」へ移行する。スムーズな移行を図る。
- ・授業プリントや便り等の配信、アンケート等は、Google Form、Google Classroom での配信が定着し、業務改善に繋がった。授業や単元テスト等での活用については今後の取り組みが必要である。
- ・本年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、全ての行事が以前に戻った感がある。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として大きく、遅刻数だけでなく、欠席や教室に入りにくい生徒は増加している。このことについて、適切な対応が求められる。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- 西高の丁寧な学習指導、熱心な部活指導は、本当にありがたい。西高の伝統でもある。一方で、先生方の多忙の問題がある。特に部活動に携わって頂いている先生は、時間外労働時間がより長くなるのではないかと。校内の業務分担でなるべくバランスを取ってほしい。
- 西考、探究活動については、単年度でなく、2年、3年に引き継いで深め、さらに充実した取組になるように期待する。65歳以上のOBの力を借りていくことも検討頂ければと思う。
- 「探究」の中に「人権総合学習」を位置づけ、10の人権テーマを設定された取組は素晴らしい。今後も続けていき、その活動を広めて頂くことを期待する。
- 今の社会では、コーディネーターよりファシリテーターが求められている。良いファシリテーターを育てる教育をお願いしたい。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- ・授業での ICT 活用をさらに進める。
- ・生徒の自主性を高める課題の量や出し方等について検討し改善に取り組む。
- ・計画的な学習指導、進路指導に引き続き取り組み、難関大学の合格者増を図るとともに、個々の生徒の学力の伸長と進路実現を支援する。
- ・全教育活動をとおして「命を大切にす教育」を充実し、一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進する。
- ・本年度、生徒の自転車事故が増加してしまった。交通ルールやマナーについてさらに考えさせる機会を充実させる。学年集会等を通じ自分の命、また他者の命の大切さを伝えていく。
- ・「西考（ニシコウ）」、「津西SP P」、「津西グローバルチャレンジプロジェクト」の充実を図る。
具体的には、来年度さらに外部との連携を1.5倍に増やす計画をしている。

学校運営についての改善策

- ・本年度、教職員の総勤務時間縮減のため、以下の取組を行った。
- ・本年度、導入されたデジタル採点システム「百問繚乱」の活用を進めた。
しかし、採点業務の負担が減った部分と、増えた部分があるようである。効果的な使い方について、今後検討が必要である。
- ・会議時間の縮減や、会議の回数を減らすことに取り組んだ。さらに業務改善や業務内容の精選に、学校全体で取り組む必要がある。
- ・部活動指導員等の外部人材の活用も、本年度以上に増やしたい。
- ・印刷業務をスクールサポートスタッフ等に依頼する仕組みを整えた。今後さらに活用を進めていく。また印刷業務そのものの精選も行う。ペーパーレス化についても引き続き推進する。
- ・探究活動に関わる行事は、金曜6、7限の授業に取り込めるよう再編している。さらなる行事の精選が必要と考えている。

- ・2Fの生徒会顧問室の改装を行った。進路関係の会議や打ち合わせ、生徒との面談、また、ちょっとした隙間時間に、職員が休養を取れる部屋として活用できるよう、エアコン等の設置をしていく。